

百舌鳥・古市古墳群の特徴

古墳は日本列島の各地にみられ、それらの多くは一定のエリア内に群をなしています。それらは「古墳群」と呼ばれ、その中で特に大規模な前方後円墳が集中しているのは大阪と奈良です。その代表が百舌鳥・古市古墳群です。2つの古墳群は、巨大な前方後円墳を核とし小規模な円墳、方墳で構成されています。

①墳丘の巨大さ ②濠の多重化 ③陪塚の配置は、古墳築造の最盛期をはっきり表しています。

また、立地にも特徴があり「百舌鳥エリア」では大阪湾を望む台地上に、「古市エリア」では丘陵や台地上に立地し、古墳の巨大さを引き立てる場所を選んだと考えられます。

さらに副葬品として、当時貴重な鉄資源を最新技術で作られた鉄製品が大量に埋葬されています。「甲冑（カッチュウ）」「鍬（やじり）」「刀剣」「鍬鋤先（くわすきさき）」などです。古墳の被葬者に大きな権力が想像できます。また、「馬具」「帯金具」などの金銅製品も出土しています。

百舌鳥・古市古墳群の規模と構成

百舌鳥・古市古墳群の巨大前方後円墳（200m越の古墳）11基の内、4世紀後半から5世紀後半にかけて築造された「仲姫命（なかつひめのみこと）陵古墳」「履中（りちゅう）天皇陵古墳」「応神（おうじん）天皇陵古墳」「仁徳天皇陵古墳」「允恭（いんぎょう）天皇陵古墳」「ニサンザイ古墳」「仲哀（ちゅうあい）天皇陵古墳」は、各々の築造時期の最大または最大級の規模を誇ります。

また、この7基の周辺には、「陪塚（ばいちょう）」と呼ばれる中小の古墳が衛星状に取り囲んでおり、主となる古墳の被葬者の権力の大きさを知ることができます。うち5基の古墳では2重・3重の濠で墳丘を囲んでいて「下界からの遮断や「濠に浮かぶ墳丘」という情景上の演出が行われています。

7基の前方後円墳のほとんどは

①突出した規模の大きさ ②陪塚が存在する ③壮厳な墳丘の演出がされている
④古代の文献「古事記」「日本書紀」などにみられる伝承が伝わっている
などから、古代日本の王の墓であると考えられています。

百舌鳥・古市古墳群は、巨大前方後円墳を頂点として付属する中小の古墳や、巨大古墳に付属しないものの、同時期に築造された様々な規模と形状の古墳が100年以上にわたって形成され続けた古墳群です。倭の王、王の親族、そして属臣たちの墓の集まりです。

200mを越える「巨大古墳」リスト

外濠や堤が埋められ宅地や畑になり原型がわかりにくい古墳があります。（ニサンザイ古墳、津堂城山古墳、允恭天皇陵古墳など）

①表の「→525」の数値は2018年4月12日 宮内庁による三次元による測量調査によります。
②※印は電子百科辞典に掲載または、筆者が最新国土地理院地図を電子測定した数値ですが、宅地や道路になっている場合、原型が読めません。公式ではありませんが参考にして下さい。

| NO | 古墳名称 | 墳丘の長さ m | | エリア | NO | 古墳名称 | 墳丘の長さ m | | エリア |
|----|--------------------------|---------|-----|-----|---------|------------|---------|--|-----|
| | | 濠を含む全長m | | | | | 濠を含む全長m | | |
| 1 | 仁徳天皇陵古墳 | 486→525 | 百舌鳥 | 7 | 允恭天皇陵古墳 | 230 | 古市 | | |
| | | 840 | | | | ※ 約310 | | | |
| 2 | 応神天皇陵古墳 | 425 | 古市 | 8 | 墓山古墳 | 225 | 古市 | | |
| | | ※ 約620 | | | | ※ 約260 | | | |
| 3 | 履中天皇陵古墳 | 365 | 百舌鳥 | 9 | 津堂白山古墳 | 210 | 古市 | | |
| | | ※ 約510 | | | | 電子百科辞典で400 | | | |
| 4 | ニサンザイ古墳 (名称語源：陵 みささぎ) | 300 | 百舌鳥 | 10 | 御廟山古墳 | 203 | 百舌鳥 | | |
| | | ※ 約400 | | | | ※ 約300 | | | |
| 5 | 仲姫命陵古墳 | 290 | 古市 | 11 | 白鳥陵古墳 | 200 | 古市 | | |
| | | ※ 約350 | | | | ※ 約280 | | | |
| 6 | 仲哀天皇陵古墳 | 245 | 古市 | | | | | | |
| | | ※ 約360 | | | | | | | |